

第8回 地球環境建築憲章委員会討議メモ(案)

1. 日時：2000年9月5日(火) 18:00~19:30
2. 場所：学会会議室
3. 出席者(敬称略):
 - (社)日本建築士会連合会
藤本 昌也
 - (社)日本建築士事務所協会連合会
鈴木 俊夫、山際 二郎
 - (社)日本建築家協会
高野孝次郎
 - (社)建築業協会
三島 亨、柴田淳一郎
 - (社)日本建築学会
仙田 満、秋山 宏
4. 配布資料
 - 資料1 第7回地球環境建築憲章委員会討議メモ(日本建築学会)
 - 資料2 「地球環境・建築憲章」パンフレット(仙田委員長)
 - 資料3 「地球環境・建築憲章の運用に当たって 検討バージョン」
(運用指針作成WG)
 - 資料4 地球環境建築憲章運用指針作成WG第1回~5回開催メモ(日本建築学会)
 - 資料5 日本経済新聞広告特集「地球環境・建築憲章」(仙田委員長)
 - 資料6 同誌広告スペース見本(仙田委員長)
 - 資料7 持続可能な循環型社会の実現に関するアンケート(日本建築学会)
5. 確認事項
 - 1) 前回(7/18)討議メモの確認。
修正箇所無く承認された。
6. 報告事項
 - 1) 仙田委員より資料3に基づき、「行動指針運用WG」の報告があった。
指針の名称については最終結論に至っていない。検討してきた中で「運用指針」より「同解説」の方が良いという議論も出ている。また各項目別の内容について、1.長寿命には既存建物の再利用促進を積極的に盛り込むなど地球環境との接点に基づいた位置づけを明確に表すことを目指すこととした。
 - 2) 「運用指針」の構成・内容について
資料3に基づき内容審議。主な意見は下記の通り。
 - ・項目別にしたことでまとまりがでてきた。
 - ・1.長寿命、4.省資源・循環については主張したいことがわかりやすくなっている。

- ・各5項目が地球環境問題とどのような関わりがあるのか、接点となるキーワードを明確に。
 - ・2.自然共生について、建築は建ててはいけないということも考えるべきと書くことはできるだろうか。つまり建築は地球に対する負荷であるという反省。建築化しないという発想をもてるかどうか。
 - ・現段階での検討の中で問題意識が薄い項目はむしろそのことを正直に認識することが必要。今の我々の意識を反映させることが重要であり、今後随時世情に対応できるよう更新していけば良い。
 - ・6.継承性について、「情報の整備」はどこでの整備を目指しているのか。
 - ・行政および個々の建築両方が対象。
 - ・全体とのバランスを考えるべき。他の項目に比べて子供に関する記述が多いように感じられる。
- 本日の意見をWGに報告して内容に反映していただくこととした。

3)パンフレットについて

仙田委員長より資料2-運用指針の見本(パンフレット)が紹介された。

- 「8頁構成・・・表紙-憲章(邦文)-憲章(英文)-運用指針-起草・賛同団体名」
- ・文字が多いため、インパクトが薄くなってしまわないだろうか。報告書ではないので、長寿命の建物の絵・写真を載せるなど、ビジュアル的に目を引くようにできないだろうか。
 - ・5項目それぞれの中のトピックスが多いのかもしれない。
 - ・各項目とも比較的抽象的なことを言っているので文字だけで表した方が良い。
 - ・持続可能な循環型社会の実現に関するアンケートを出した学協会のうち、協賛に前向きな団体に確認を取り、パンフレットの最終頁に団体名を記載することなども考えられる。
- 構成・体裁については概ね合意を得たが、色・フォントなど細部につき引き続き検討して行くこととした。

4)新聞告知について

仙田委員長より資料5.6に基づき新聞告知の企画の提案があった。

4頁案・・・憲章総論(1頁)

インタビュー(2頁):日本建築士会連合会会長、日本建築士事務所協会連合会会長
 鼎談(3頁):日本建築学会会長、建築業協会会長、日本建築家協会会長
 各団体の環境建築賞紹介(4頁)

8頁案・・・憲章総論(1頁)

憲章各テーマの解説および話題(2~5頁)
 インタビュー(6頁):日本建築士会連合会会長、日本建築士事務所協会連合会会長
 鼎談(7頁):日本建築学会会長、建築業協会会長、日本建築家協会会長
 各団体の環境建築賞紹介(8頁)

以下主な意見。

- ・紙面構成上、また広告費の面でも4頁でよいのでは。
- ・最終頁に環境を表す建築賞を紹介するのであれば特定の団体に偏らないようにすることとしたい。
- ・1面の広告は出版社に協賛をしてもらい社名・書籍名を列記してはどうだろうか。
- ・広告を出す場合、特定の業界だけにしないようにしたい。
- ・各団体を社会的により認知してもらえるように各会長ごとに団体の特徴・活動内容を紹介して

はどうか。

- ・内容的には4頁、8頁とも対応できるが、広告費が集まるかどうかに係わってくる。
4頁案、8頁案両方の可能性を残し、仙田委員が内容を再度検討の上、各委員に意見を聞くこととした。

次回は9月22日(金)13時00分から学会会議室にて開催する。

1. 「地球環境・建築憲章 運用指針」について
2. 新聞告知について

なお、同日16:00より行動指針作成WGを開催する。

以 上